

総合周産期母子医療センター（母体・胎児部門）

1. 概要

東三河唯一の総合周産期母子医療センターとして新生児部門と連携し妊娠中の母体・児の診断・管理・治療を行っている。本年は新型コロナウイルス感染拡大予防のため里帰り分娩の制限を行った。出生数の減少もあり分娩数は顕著に減少した。新型コロナウイルスの感染拡大以降、院内では全身麻酔の手術は全例術前に新型コロナウイルス感染症のスクリーニング検査を行っているが、超緊急帝王切開ではこの検査を事前に行うことができないため新型コロナウイルス感染防御を行った上で手術を行わざるを得ない。シミュレーションを行い30分以内に児を娩出できるよう努めている。東三河地域では新型コロナウイルス感染妊婦の対応を行っているのは当院のみとなっており、感染確認および濃厚接触妊婦の対応を行った。

母体搬送は分娩数の減少にもかかわらず、205件を維持し全例応需を原則としている。

当院ではハイリスク妊婦が集中しているため妊娠初期より助産師が主導するバースセンター分娩の対象となるローリスク妊婦は非常に少ない。医師主導の健診の後36週以降リスクが低いと判断された妊婦に対し助産師が積極的にかかわる“セミバース”分娩として妊婦のバースプランを尊重した分娩に対応している。

産後ケアプランは豊橋市外の妊婦も対象となり、分娩後の家族のケアが受けられない妊婦やハイリスク分娩のため、新生児医療センターに入院した児が自宅に退院する前の育児習得を目的として利用者が増加した。

（センター長 岡田 真由美）